E 10　食生活の社会化（第2報）——主婦の学歴別による考察

日本大短大　石和千鶴

目的　食生活の社会化の実態及び主婦の職業別による傾向は，第1報に於て明らかにされたが，今回は主婦を学歴別にわけ学歴によりどのような傾向がみられるかを知ることを目的とした。

方法　第1報と同じくアンケート方式をとり，主婦586名を調査の対象とした。アンケートの内容は加工食品，冷凍食品の利用状況，家族のおやつ及び外食，食品の共同購入等についてである。調査対象を4つのライフステージにわけ，主婦の学歴を3段階に区分し学歴別による考察を試みた。

結果　加工食品の利用頻度は概して高学歴者の方が少なく，その効果については加工食品をわき役的に食卓を賑やかにするためと考えている人が学歴順に多くなっている。おやつの手作りは，(2)と(3)のライフステージに於ては学歴順に多くなっている。既製のおやつに対する心配の程度は低学歴者の方が軽くなっている。

食品の共同購入については地域により差が大きく，各ステージとも高学歴の者に経験者が多く，関心の強いことがわかった。　夕食の材料を配達して貰うディナーサービスは利用者が予想外に少なく，こどもの小さい(1)と(2)のライフステージに比較的多くみられた。ディナーサービスにより，料理のレパートリーがふえて良いと考えている者は概して低学歴者に多い。(1)と(2)のライフステージに於ては利用者は学歴順に少なくなっている。